



下諏訪 Vol.50 ぎざし

2025
12月定例会

特集 12～14P

★各委員会 視察報告
★下諏訪町議会
お話し会

特集 10～11P

～しもすわ未来議会 特集～
中高生が語った
「町への思い」



陳情・意見書案の審査結果

陳情ってなに？

国や地方公共団体などの公共機関に対して、その実情を訴え、一定の措置を行うよう、または行わないよう要望する行為のことです。



意見書ってなに？

議会がその意思を意見としてまとめ、国会や関係機関に提出するものです。請願や陳情の願意に沿ったものや、議員発案で提案されるものがあります。

＜診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬

10%以上の引き上げを求める陳情・意見書＞

賛成多数で可決

陳情提出者は、長野県医療労働組合連合会、長野県社会保障推進協議会。公定価格である報酬が物価高騰に届かず、医療・介護・福祉現場では厳しい経営状態が続いています。ケア労働者の賃上げも困難で慢性的な人手不足が生じています。

国に対し、来年度の診療報酬改定と併せ、介護・障害福祉サービス報酬の改定も一年前倒しで行い、10%以上引き上げること、今年度中の公費による賃上げ支援策を要望する内容です。

陳情採択を受けた意見書案が、生活文教常任委員会から提案されました。

賛成 報酬の引き上げなくしては、それぞれの現場で奮闘を続ける職員の皆さんの処遇改善は進まない。住民の命と暮らしを守るためにも、必要な内容。

反対 それぞれが異なる制度の報酬なのに、まとめて要望するのは、いかがなものか。10%以上の引き上げが賃金引き上げに繋がるとは、限らない。

＜最低賃金引き上げに伴う中小企業の負担を軽減するため

国による支援拡充を求める意見書＞

賛成多数で可決

賛成 日本では 99%以上が中小企業で、全雇用者の 7 割に当たる中小企業労働者の大幅賃金アップは経済の活性化に繋がる。国の支援は不可欠。

反対 中小企業の賃上げを支援するため、政府はあらゆる施策と予算計上を行っている。求められるのは、地域の実情に合わせた支援。

今年度、最低賃金は過去最大に引き上げられ、初めて全都道府県で 1,000 円を超えました。しかし、経営に困難を抱える中小企業は、経費増や社会保険料の事業主負担増加により、これ以上の賃上げ対応が難しい状況です。

中小企業の負担軽減のために、賃上げに対する直接支援の拡充および社会保険料負担増への支援を、国に求める内容です。金井敬子議員から提案されました。

12月定例会 議案等賛否一覧

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ表示しています。

議員名（議席順）	議決等結果	中山透	林吉広	野沢弘子	竹元完奈	高橋幸二	林元夫	樽川信仁	大橋和子	花岡進	金井敬子	青木利子	豊島健之	松井節夫
議案名等														
乳児等通園支援事業の設備・運営に関する基準を定める条例	可決		○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×
特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例	可決		○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×
高齢者祝金条例の一部改正	可決		○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×
高浜健康温泉センター条例の一部改正	可決		○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×
診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬 10%以上の引き上げを求める陳情・意見書	陳情：採択 意見書：可決		×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○
最低賃金引き上げに伴う中小企業の負担を軽減するため国による支援拡充を求める意見書	可決		×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○

賛成者は「○」、反対者は「×」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

議員が注目の議案！

25議案を審議
24議案を可決
1議案継続審査（↓12・13P参照）

高木橋架け替え工事延長で

町道大沢川通り線高木橋架け替え工事のR7年度工事の工期延長に伴い、橋に併設している水道管約80mの工事契約が来年度に渡ることから「債務負担行為」を行うものです。

【まめ知識】

「債務負担行為」ってなに？

自治体などが「来年度以降に払うお金（債務）」について、今年の予算で「支払う義務があるよ」とあらかじめ約束・承認しておく手続きです。単年度で終わらない大きな工事や業務（例3年かかる建物の建設）を、今のうちから複数年度で計画的に進めるために必要で、議会の承認が必要。これは将来の財政負担を透明化し、住民のチェックを受けるための大切なルールです。

物価高騰対応重点支援

地方創生臨時交付金

本交付金は、全国規模では約2兆円にのぼる大型の交付金です。

物価高騰が長期化する中、自治体が発地の実情に応じた柔軟な支援策を迅速に実施できる点が特徴となっています。

下諏訪町においては、この交付金を活用し、いち早く上下水道基本料金の減免を実施します。基本料金を軽減することは、世帯の負担を幅広く、かつ公平に緩和する効果が期待されます。

これも誰でも通園制度を実施するための条例を制定

国がR8年度から実施することも誰でも通園制度は、生後6か月から満3

歳未満で保育所などに通っていない子どもを対象に、就労の有無を問わず月10時間までの枠内・1時間単位で保育所等を利用できる制度です。実施のために、国の設備・運営基準に基づき、2つの条例を新たに制定するものです。

保育士不足の中、子どもの安全や保育の質が保てない。新たな制度の導入より先に一時保育の拡充や育児休園を廃止すべきで反対。孤立防止や育児負担が軽減され大きな安心になる。利用しやすい制度設計を求めて賛成との討論があり、賛成多数で可決しました。



高齢者祝金条例を改正

長寿を祝福するために祝金を贈る事業については、対象をこれまでの「満88歳、満99歳、満100歳以上」から「満88歳と満100歳」に見直し、祝金の額は一律8千円のところを、満88歳へは5千円、満100歳へは1万円に改定します。

年金は実質的に減り続け、止まらない物価高騰の中、敬意を表すべき高齢者の祝金を減らすことには反対。高齢

化はさらに進み、制度の継続が求められている。高齢者施策を安定させていくためには見直しが必要であり賛成との討論があり、賛成多数で可決しました。

高浜健康温泉センター

「ゆたん歩」の使用料を値上げ

光熱水費の高騰や、開館から10年以上が経過し設備等の修繕が必要となり、施設の安定的な運営のために、利用者に負担いただくものです。1回券は大人400円から500円に、子ども子育て応援カード・高齢者応援カード・障害者手帳等の提示者は200円から250円になり、12枚綴りの回数券も値上げします。

町民の健康増進を目的に作られた施設であり、物価高騰の中、25%もの値上げはすきではないので反対。光熱水費の高騰や修繕が必要な状況であり、ある程度の受益者負担をお願いするしかないため賛成との討論があり、賛成多数で可決しました。

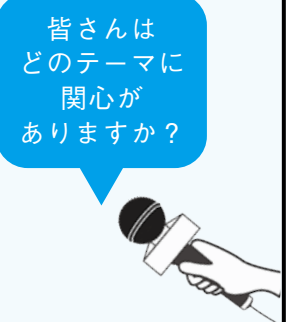


多くの方が利用する「ゆたん歩」

一般質問12人の視点

「歩いて・見て・聴いた」こと「議員自身の提言」も交えて、町に考えを質す！
12月定例会では、複数人の議員グループで質問する代表質問と、個人議員の単独質問が行われました。あらゆる町の課題に、議員一人一人の目線で、執行部と真剣な議論を展開。今後の町の動向にも注目！

- | | | | | | | | | |
|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|
| P10 | P9 | P9 | P8 | P8 | P7 | P7 | P6 | P4~5 |
| 夏休みの壁 | 起業・創業 | 早期退職 | 子ども権利 | 赤彦生誕 | 地域に貢献 | 物価高対策 | 単独質問 | 代表質問 |
| | | | | | | | 子供の安全 | 生活支援策 |



各議員のQRコードから一般質問の録画映像を見ることができます。
スマートフォン等からアクセスして、ぜひご覧ください。
全質問項目は、下諏訪町ホームページから見るすることができます。

下諏訪町議会
議会中継
チャンネル



今後の活用が注目される「ぼけっと」

町長 国において2兆円規模の重点支援交付金拡充が審議されている。具体的な配分額は未だ示されていないが、昨年度よりかなりの増額が見込まれる。暖房費など含めた補助は、その交付金活用を検討。

ニーズに応える環境を

問 保育や学童へのニーズの高まりに対応するため、保育士や支援員の確保、処遇改善や南小児童のスペースなどの課題検討は。

教育こども課長 保育士については、来年度募集に複数人の応募がある。業務補助に会計年度任用職員やシルバー人材センターの方も入れ、保育士の業務改善を図っている。学童支援員については、地域おこし協力隊に2人の応募があり、来年度から全体のマネージメントも担ってもらう。南小児童の施設の増設は困難。待機児童は出さないよう、運営改善や既存スペースの有効活用で対応していく。

問 来年度の入園申し込みのニーズに、すべて応えられるのか。

教育こども課長 年少以上は全て受け入れ可能。未満児については、現在優先度調査中。

問 来年秋に開店予定のイオン新店舗内に設ける子育て・多世代交流施設と子育て支援センター「ぼけっと」の今後の在り方について、「子育て施設検討会議」での議論の経過と、町の考え方は。

町長 検討会では多くの意見をいただき、「ぼけっと」が多くの人に愛されていることを認識した。イオン内の新施設についての検討が終わった後に、「ぼけっと」の今後について検討していく予定。

問 新施設の設計図は、「子育て施設検討会議」の意見取りまとめによる変更は可能か。

教育こども課長 柱や壁以外は変更可能。

問 高齢者世帯等へのエアコン設置補助制度の創設を。また、猛暑や極寒から身を守るシェアスポッ

トを拡充できないか。

町長 財源確保や公平性の点から、エアコン設置に対する補助は困難。関係機関との連携により熱中症防止のための見守りに力を入れる。

住民環境課長 今年度公共施設7箇所を「クーリングシエルト」として設置した。来年度に向け協力いただける民間事業所への働きかけを進める。公共施設に限らず、あすなろ公園、八島湿原などの屋外や、町内温泉施設など16施設を「クールシエルトスポット」としてきた。拡充・周知に努める。

ゼロカーボン推進を

問 ゼロカーボン推進のため、無料給水スタンドの増設、家庭用の宅配ボックス設置への補助制度、ゼロカーボン補助金・生ごみ処理機補助金などの既存補助制度の拡充を。

住民環境課長 文化センターに設置した給水スタンドでは500ml 3500本分の水を供給した。今後、ウォーキングや外出中に利用ができるよう給水スポットを増やしていく。宅配ボックス補助と、生ごみ処理機購入への補助見直し

を検討中。住宅省エネ化リフォーム補助金の補助率アップ求める声があり、建設業者等と協議する。

問 下水道事業における官民連携方式ウォーターPPPは2028年度の開始を視野に導入に向けての調査が始まっている。公共サービスとしての上下水道事業を堅持していくために、拙速な導入は避けるべき。

建設水道課長 国はウォーターPPPを推進している。町の主体性は維持し、より質の高いサービス提供が目指される有効な手段と捉えている。まずは下水道について導入に向けて検討を開始する。上下水道審議会を中心に住民の意見も大切に、拙速な判断は避けた。い。上水道については今のところ考えていない。



文化センター設置の給水スタンド

生活支援策

問 今年度中学3年生の給食費無償化に続き、早期に小中学校全学年の無償化を。無償化が困難であるなら、既に給食審議会が決まっている来年度の1食20円の値上げに対する補助増の考えは。

町長 国は小学校の給食費無償化を検討しているが、通達はまだ。現在の町の財政状況では、町単独での全学年無償は困難。来年度の補助については、予算編成で検討。

問 公共施設や学校トイレへの、生理用品配備の検討状況は。

総務課長 公共施設の窓口に意思表示カードを提示いただく対応

にほんざようさんとう
日本共産党

松井 花岡 金井
節夫 進 敬子

前半 後半

問 物価高騰対策として、これからの厳冬期に向け、「福祉灯油」のように灯油代、電気代などの暖房費補助を行うことはできないか。

答弁 試行を経て、来年度本格実施



で、一定の支援はできたと考える。常備には管理方法や補充方法、コスト面、衛生面での課題がある。来年度予算編成の中で持続可能な方法を考えている。

教育長 学校では保健室での配布を今後も継続する。配布時の相談体制をとっていききたい。

**学童クラブ
昼食提供を**

答弁 試行を経て、来年度本格実施



みらい かい 林 吉広
未来の会 高橋 幸二
前半 後半

子供の安全

問 現況の人口減少ペースをどのように認識しているか。

総務課長 出生数の減少は深刻であり、自然減・社会減もあわせて早いペースで進んでおり危機感をもって受け止めている。国や県の支援制度や先進事例を参考に可能な限り持続可能な地域づくりに取り組んでいきたい。

問 第2子以降の出生減少が少子化の新しい主要因となりつつある点についての認識は。

町長 背景には経済不安・物価高騰・育児への負担感・価値観の多様化等複数の要因が関係している。ひとつの施策だけではなく、今後

人口減少ペースの 見解は ペース早く危機感 をもっている

は特に第2、第3子への複合的な支援策の強化を図っていきたい。

問 子育て世帯への住宅施策をどのように強化していくか。

産業振興課長 個別の要望をしっかりと伺っている。町の結婚新生活支援住宅として結婚5年以内の夫婦に対して安価な家賃で利用できるアパートを最大4世帯分提供している。これまで多くのご家族に利用いただき、現在も満室状態が続いている。

子育て多世代交流施設

問 イオン併設「子育て・多世代交流施設」の達成目標や理念をどのように設定しているか。

町長 施設検討会議にてコンセプトを設定している。子どもたちが安心して遊べる場。子育て支援や高齢者の生きがいづくりなど多世代が安らげる場。中高生の放課後

学習や高齢者、多世代の活動交流を支援する場を基本としている。

問 民間主体の子どもの居場所や子ども食堂の創設への支援や、行政との協働をどのように進めるか。

教育こども課長 活動費などの課題に対して町としても財政面で支援するため、今年度子ども居場所づくり支援事業補助金を創設し、資金的な協力を始めている。

工業メッセでの学びを

問 児童・生徒の見学の状況は。

教育こども課長 R5に下中1年生が見学したが、以外は未実施。

問 工業メッセ見学を積極的に設けていくべきと考えるか。

教育長 私自身は価値ある学びになると思っている。教育課程の編成権は学校長にある。見学に行つたことがない学校長がいたため、次回見学するよう指示した。

秋宮周辺の車両誘導

問 秋宮へ向かう正式ルートの看板や案内サインを設置する考えは。

建設水道課長 必要性は認識している。国道事務所に申請しているが設置スペースがなく対策検討中。



通学路の見守り

問 観光案内所や町のホームページ、SNSなどに公式の「推奨ルートマップ」を掲載してほしい。

産業振興課長 観光のホームページなどに推奨ルート情報を掲載するのが良いか検討していく。

家庭における危機管理

問 防犯・防災カメラに対する補助制度導入をどのように考えるか。

町長 厳しい財政の為補助は困難。

学校周辺の安全確保

問 こども視点での通学路点検と見守りボランティア登録制度の導入を検討してほしい。

町長 大変有意義な提案。前向きに受け止めたい。児童や保護者目線で危険を発見する事は大切。今後協議していく。登録制度も含め見守り体制の構築をしていく。



はやし もと お
林 元夫

物価高対策

問 迅速かつ速攻性のある物価高対策が求められている。商業発展や消費購買力向上に寄与するプレミアム付商品券や上下水道の基本料金免除などは、誰にでも寄与できるものだ。諏訪市で行っている経費のかからないデジタルプレミアム商品券などの導入も重要な視点と考えているか。

町長 経済的回復も視野に、町の実情に合った高騰対策を総合的に検討し実行する。

理想の下諏訪を求めて

問 明るい未来ある下諏訪を構築することが、私たちの仕事だと考える。理想の下諏訪実現に必要なことは。

町長 町民ニーズを捉えて、実現することが重要。そのため全課横断的な新たな体制づくりもしていく。

不登校過去最多に

問 不登校児童が連続で過去最多となっている。下諏訪町の不登校やいじめの現状と対策は。

教育長 R6年度末、30日以上休んでいる児童は36名で全体の3.1%。全国平均3.9%より少ない。関係者、関係機関と情報を共有し、組織的・計画的に支援している。いじめは10件で、いじめを見逃さず、解決することが重要。



笑顔で子供が登校できますように



とよしま たけゆき
豊島 健之

地域に貢献

問 「Jクレジット制度」登録の可能性は。

産業振興課長 Jクレジット制度は、CO₂等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する登録制度である。クレジットを創出することで、環境対策への積極的な取組のPRを行うことや、クレジットを売却することで売却益を得ることができる。一方で制度登録には、森林経営計画に基づいた森林管理他、数多くの手順を踏まなくてはならず、職員体制や審査費用等を整える必要がある。

まずは費用対効果を精査する必要があるが、検討への第一歩は既に着手を始めている。

問 制度利用に至った際の効用は。

産業振興課長 クレジットの認証発行まで可能となった後は、クレジットの売却又は保有を検討する

Jクレジット 制度の可能性 一般財源や企業 誘致支援策に活用

こととなる。売却出来た場合には町の収入に繋がり、使途については一般財源として活用することができる。また売却せずにクレジットを保有し、企業誘致の支援策として、誘致した企業にクレジットを譲渡する方法も選択肢としてはあり得る。いずれにしても実際にクレジットの発行までに至った場合には、様々な活用方法があり、プロジェクトの進行と共に考えて行く必要がある。



地域の安全と経済に貢献するJクレ！



あかし かずこ
大橋 和子

**150周年事業
進捗と期待**
赤彦の功績を
振り返る機会に

問 短歌に触れられる企画展示を。産業振興課長 鑑賞者の感性を大切に展示解説に努める。

問 短歌の教室や体験企画は。

産業振興課長 島木赤彦の短歌への情熱を次世代に伝えるため教室を含めた取り組みの実施を検討。

問 記念事業と観光活用は。

産業振興課長 全国的に根強いファンがいて短歌もブーム。積極的な情報発信で多くの来場者数を確保。

高齢者の安心・安全

問 災害時インフォメーションは。

総務課長 広報は聞きづらい時もあるが、フリーダイヤルでの確認、しもすわインフォ、町ホームページ等、複数で対応している。

問 個別避難計画の検証は。

保健福祉課長 計画作成と併せて、避難訓練を行って検証していく。

問 ペット同行避難の考えは。



下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館所蔵
アララギ派島木赤彦（右から2人目）

イタリア訪問について

問 イタリア訪問による町のビジョンは。

町長 オリンピックのレガシーとして繋げていきたい。ヴァレーゼ市、テルニ市の視察を通じ、今後の国際交流を考えたい。多くの学びと気づきを得た。



たけかわ のぶひと
樽川 信仁

**子どもの権利
条例制定を
答弁**
条例ではなく
制度に落としこむ

問 職員・支援員・教職員・保育士等へ、子どもの権利研修実施状況は。

教育こども課長 学校では、各種研修や子ども達との学習などで日々確認している。保育園では、子どもの権利に関するものはないが、各種研修会で今後機会があれば実施したい。学童クラブでは年に1回マニュアルを共有しているが、R8年度マニュアルに子どもの権利の内容の追記を検討していく。

向陽高校魅力化

問 町と向陽高校との魅力化に向けた連携体制と課題は。

町長 県教委の再編基準に向陽高校が該当しないように、向陽高校主催で町関係者と魅力を考える会を11月に開催。新たな取り組みとして、単位制とコース制の導入、地域連携強化。町内唯一の高校であり、支援協力体制を来年度予算



子どもの権利とは？

編成でも検討していく。

バリアフリー観光

問 高齢者や障がい者などを観光地として受け入れるバリアフリーマップや介助付き旅行モデル事業など情報発信の考えは。

産業振興課長 バリアフリーマップ更新や観光協会ホームページにバリアフリー情報掲載を検討する。諏訪地域の関係機関とも検討を重ね、具体的な取り組みにしていく。



あおき としこ
青木 利子

**職員研修会の
実施状況は
答弁**
年次計画で実施

問 町職員の早期退職防止は重要。知識・技能を高めるための研修等の実績は。

総務課長 外部研修受講の実績はR5・6年度ともに67件。R7年度は途中だが49件。内部研修としては全職員にマネジメントやハラスメント研修を実施している。

問 異動先選択の機会はあるか。

町長 選択する制度はないが、配属先希望調査を毎年実施。希望者には面談を行い人事の参考としている。

イタリア訪問

問 イタリア訪問をどう活かすか。

町長 学校や地域イベントでの講話、中高生との意見交換などの場を設けたい。国際交流の意義を次世代に伝える工夫をしたい。

イオンスタイル諏訪

問 施設内に設置する子育て・多



イタリア選手団合宿の写真展示

ぽけっとの活用方法は

問 「ぽけっと」を現状のままです使用できないか。

町長 イオンスタイル諏訪・ぽけっと・図書館など、面としてそれぞれの施設で出来ることは何か、検討している。

スポーツ施設の魅力

問 健康ステーション内にシャワーを設置する考えは。

町長 設置が可能なのか、運営方法も含めて検討する。

問 より多くの町民がスポーツに親しむための施策は。

町長 健康関心層、無関心層に分かれる傾向にある。今後、無関心層にどのようにアプローチして健康に暮らせるか施策を練りたい。



たけかわ のぶひと
樽川 信仁

**空き店舗物件
への支援は
答弁**
補助金・経営支援
制度などを実施

宿泊施設減少の支援策

問 ビジネスホテル誘致の先頭に町長は立てないか。

町長 商工会議所、金融機関、民間事業者の意見、また事業見込みも含めて整えていくことが大事。案件が整えばトップセールスも。

山王公園について

問 今後の整備と活用の考えは。

町長 大社の意向を大前提にして、町の活性化の為に十分な情報交換をしていく。



山王公園（秋宮駐車場）からの景色

夏休みの壁



のざわ ひろこ
野沢 弘子



**学童クラブの
お弁当手配**
答弁 実施に向けて
試行を考えている

問 1年前に質問要望した共働き家庭を悩ます学童クラブの夏休みのお弁当持参の解消は。教育こども課長 R8年度には早ければ夏休みのお弁当提供を実施したいと考えている。

5歳児検診の実施を

問 就学前に発達の特徴を見つけ早期療育や支援で、いじめや不登校を防ぐ5歳児検診の実施を。保健福祉課長 実施に向け研究中。

子どもの性被害防止

問 子ども達の被害を防ぐために、学校の教育現場での取り組みは。教育長 悩み事の相談窓口を設け、子どもと教員がSNSで直接つながらないなど防止策を設けている。

ユースセンター設置は

問 若者のためのユースセンター



学童クラブ お弁当提供へ

は、新イオンに設置するか。町長 乳幼児の遊び場、中高生、多世代交流の場となる。ユースセンターの機能は含んでいない。

住民サービスの向上は

問 行政窓口のDX化の取り組みの進捗状況は。総務課長 町DX推進計画はR4年度から取り組み、書かない・行かない・待たない住民サービスの実現を段階的に進めている。

アンケートの主な質問項目

- Q1：一般質問をしてみてどんな感想を持ちましたか？
- Q2：町からの答弁をどう感じましたか？
- Q3：今回の質問が行政に反映されと感じましたか？
- Q4：未来議会を通じて、町の議会や行政の仕事をどう感じましたか？
- Q5：町の執行役や町役場職員の仕事をどう感じましたか？



アンケート結果から見えた3つのポイント

① 一般質問を経験し、町の課題を自分事としてとらえ、分析をした。(Q1)

「自分の意見をミスなくお伝えできたし、思いを伝えられた。」「どのような方針で社会体育化を進めていくか。」などの回答があり、自分の質問が政治参加へつながる事への意識向上が伺えました。

- 「質問が堂々とできた。答弁の時も目を見て相槌を打ちながらよく聞いた。」
- 「急に質問がきたので答えることができなかった。」「原稿を読むだけになった。」
- 「緊張してあまりうまく話せなかった。また機会があれば挑戦したい。」
- 「歩行者天国案でもっと質問を練ったほうがよかったと思いました。」



② 自分の考えや想いを町政に伝える難しさも (Q2・Q3)

質問に対する答弁を受けて「予算が足りないのが難しいという答弁だった、反映されないかも」「答弁が具体的だったので反映されると思った。」など、考えを伝えるのは難しいという意見も多く寄せられました。



- 「イオンの会社の人と話し合っているそうなので反映されると思う。」
- 「新聞記事にあったが、町長からも実現の内容が聞いて反映されると思った。」
- 「自分の言っていた内容はけっこう難しいようなものだから、反映は難しい。」
- 「無理だと遠回し言っていたから。」「現状に向き合っていないかった。」

③ 行政職への興味が芽生えるきっかけにも (Q4・Q5)

答弁を通じて「実際の議員として自分の意見を堂々と言うことができ楽しかった。」「責任感のある仕事だと思いました。」と将来行政に関わってみたいと答えた生徒もいた一方、「自分はやりたくない。」という声も。

- 「私は用意した原稿を読んだだけだったが実際の議会がどうなのか気になった。」
- 「大変な仕事だと思うけど興味を持てた。とてもやりがいのある仕事だと思った。」
- 「横に並んで見ていた人たちは何をしていたのか気になった。」
- 「小さな質問もしっかり聞いてくれる丁寧な対応をしてくれる仕事だと思いました。」



おわりに

しもすわ未来議会は生徒一人ひとりの「学び」や「気づき」を引き出すとともに、町政や議会の役割について理解を深める大変意義ある機会でありました。生徒さんたちは行政や政治を身近なものとして捉え、自分たちの暮らす町について主体的に考える姿勢が育まれたものと受け止めています。

未来議会が単なる学習の場にとどまらず、参画意識を高める貴重な機会となっていることがうかがえます。下諏訪町にとって、次代を担う若者が町づくりに関心を持ち、自ら考え、発信する力を育むことは極めて重要です。議長としましては、今後も学校や関係機関と連携しながら、若い世代が町政に触れ、意見を表明し町づくりに参加できる機会を大切にしていきたいと思います。そして、こうした声を真摯に受け止め、実際の議会活動に生かすことで、より開かれた、住民に身近な議会運営を目指していきたいと考えています。

しもすわ未来議会特集 中高生が語った「町への思い」

今年度も、10月27日に下諏訪町内の中学生・高校生が参加して行われた「しもすわ未来議会」は、実際に議場で一般質問を行う貴重な体験の場となりました。議会終了後、生徒の皆さんに以下の5つの質問でアンケートを実施し、その結果から見えてきた“議会へ向けての若い世代の視点”をまとめました。



議会運営委員会-視察

議会運営委員会では、11月4日～6日にかけて、千葉県柏市、神奈川県寒川町、秦野市を視察しました。今回の視察で得た知見を今後の議会運営に生かし、町民にとってより身近で、信頼される議会となるよう取り組んでまいります。



千葉県柏市議会 ハラスメント条例

柏市では、県内で初めて議会単独で制定された「議会ハラスメント防止条例」について説明を受けました。条例策定の背景や、議員間の合意形成の過程、相談体制の整備など、実効性を高めるための取組が紹介されました。制定前には、議員および職員双方を対象に匿名アンケートを実施し、実態把握を行ったとのこと。条例が議員の行動を見直す「予防線」として一定の効果を持ち始めていることがうかがえました。



神奈川県寒川町議会 住民対話 × 主権者教育

寒川町では、オープントークカフェや親子議会探検ツアーなど、住民と議会が直接対話する取組について説明を受けました。従来の議会懇談会の課題を踏まえ、私服参加やワールドカフェ形式を取り入れ、気軽に参加できる場づくりを進めているとのこと。全国で初めて議会基本条例に主権者教育推進を明記し、議会全体で継続的な広報・広聴活動に取り組んでいる点が紹介されました。



神奈川県秦野市議会 議会改革 × 主権者教育

秦野市では、通年議会の導入による議会活性化の取組と、夏休み子ども議場見学会について説明を受けました。通年会期とすることで政策立案機能の強化や機動的な議会運営を図っており、2年間で視察や調査研究を重ねた各委員会による政策提言とフォローアップを行っているとのこと。また、漫画を活用した広報や、親子参加型の見学会を通じた主権者教育の取組についても紹介されました。

生活文教常任委員会-視察

生活文教常任委員会では、10月20日～22日にかけて、群馬県中之条町、山形県酒田市、新潟県村上市および阿賀町を視察しました。今回の視察で得た知見を今後の委員会活動に生かし、地域課題の解決と町民の暮らしに寄り添う施策の検討につなげてまいります。



群馬県中之条町 再エネのまちづくり

中之条町では、地域新電力会社による再生可能エネルギーの地産地消の取組について説明を受けました。町内で発電した電力を公共施設や住民に供給し、地域内経済循環とエネルギーの自立を進めています。事業開始までの議論や経営上の課題も伺い、農業用水を活用した小水力発電所の現地視察を行いました。



山形県酒田市 図書館 × 駅前交流拠点

酒田市では、駅前交流拠点施設「ミライニ」を視察しました。図書館機能と多目的交流スペースを併せ持つ複合施設で、カフェやキッズスペースも備え、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用しています。官民連携による柔軟な運営や、駅前のにぎわい創出に果たす役割について説明を受けました。



新潟県村上市 訪問介護報酬

村上市では、訪問介護基本報酬引き下げを受けて創設された市独自の事業者支援制度について説明を受けました。中山間地域が多く移動負担が大きい実情を踏まえ、差額補填や燃料費支援などを実施しています。訪問介護を地域インフラとして守る自治体の姿勢が行動に示されていました。



新潟県阿賀町 高校魅力化

阿賀町では、阿賀黎明高等学校魅力化プロジェクトについて説明を受けました。町内唯一の高校存続を町全体の社会課題と捉え、全国からの生徒受け入れや寮と公営塾の運営に地域おこし協力隊10人配置。地域と連携した探求学習支援体制を整備して、人と地域をつなぐ持続可能な地域づくりを進めています。

総合計画基本構想審査特別委員会を設置

下諏訪町総合計画って？

これから先の10年間、町がどんな姿を目指していくのかを示した、まちづくりの道しるべです。社会の変化をふまえ、町の魅力や大切な資源を生かしながら、行政と町民が同じ方向を向いて取り組みます。誰もが安心して暮らし続けられる町を目指し、総合的・計画的な行政運営を行うための最上位計画です。



策定までの流れ

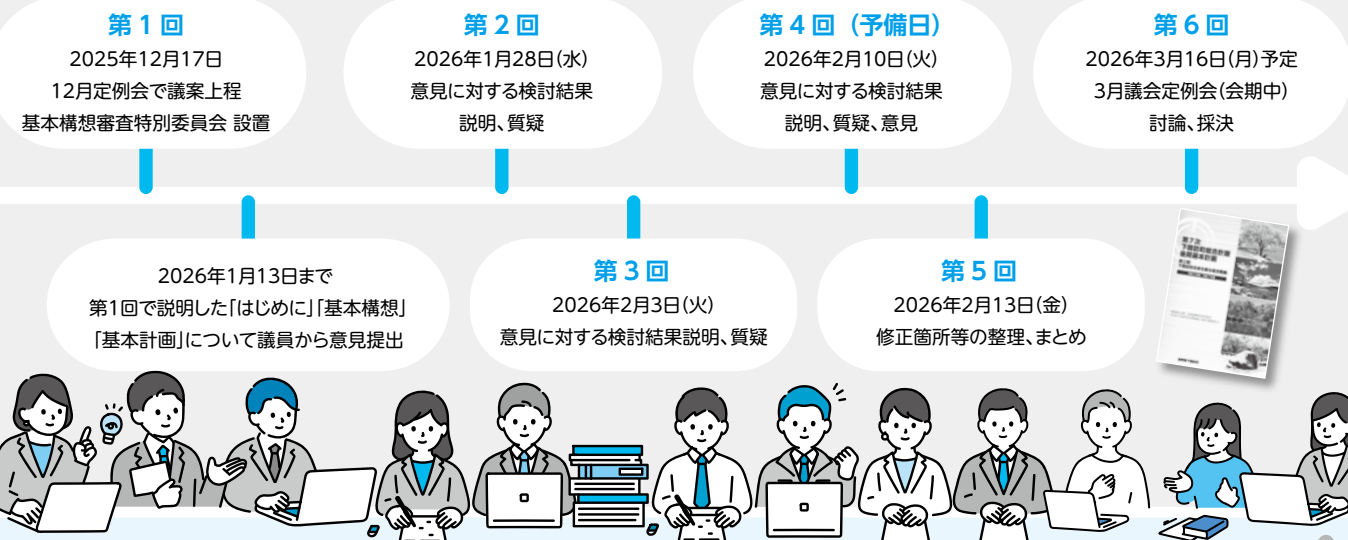
現在の「第7次下諏訪町総合計画」は、策定から10年が経過し、令和7年度末で計画期間が終了します。直面する課題を改めて整理し、新たに「第8次下諏訪町総合計画」が策定されます。

計画案は、社会の変化や令和6年度に実施した住民満足度調査の結果をもとに、町役場内の検討を経て素案が作成され、有識者や公募町民で構成される審議会で意見を伺い、答申を受けて内容が修正されています。さらに町民の皆さんからパブリックコメントを募集し、寄せられた意見を反映させた計画案が12月定例会最終日に議会へ議案上程されました。



議会での審査

議会への議案上程を受け、議長を除く全12人の議員で構成する「基本構想審査特別委員会」を設置しました。12月～3月にかけて継続審査を行い、3月定例会での採決を経て、第8次下諏訪町総合計画が完成します。



議会活動報告

この1年間、下諏訪町議会では、町内外の行事や視察などを通じて、たくさんの学びと交流を重ねてきました。地域の声を町政につなげるために、議員一人ひとりが現場に足を運び、感じたことを今後の活動に活かしています。今回は、その活動の一部をご紹介します。

Pickup!

姉妹都市 南知多町との交流 11/1

姉妹都市の南知多町で開催された産業まつりにお邪魔しました。会場は大変な賑わいで、多くの人で溢れていました。南知多町議会の皆様とも久しぶりにお会いすることができ、温かく迎えていただきました。下諏訪町と南知多町は、町制100周年を機に、経済・文化・スポーツなどを通じた相互理解と親善を目的に友好交流をスタートしました。

南知多町は愛知県知多半島の南端に位置し、町のほぼ全域が国定・県立自然公園に指定される風光明媚な町で、海辺のリゾート地としても多くの観光客で賑わっています。



一部事務組合・広域連合議会

3つの一部事務組合（湖周行政・諏訪広域公立大学・湖北行政）と諏訪広域連合の定例議会が開催され、令和6年度決算認定について審議しました。

湖周行政事務組合議会では先進施設の視察を実施し、他地域の優れた取り組みや運営方法を学びました。これらの経験を通じ、地域間での知見共有を深め、下諏訪町の発展や住民サービスの向上に生かしてまいります。広域連携の取組が、持続可能な地域づくりへとつながるよう努めてまいります。



諏訪圏工業メッセ2025 6/26

諏訪圏工業メッセ2025・しもすわストリート開会式に参加、しもすわストリートや各企業ブースを見学しました。地元企業の高い技術力と発信力に大変感動しました。

諏訪圏工業メッセは、「精密技術が未来をつくる」をテーマに、全国でも有数の規模を誇る地方発の産業見本市です。諏訪地域を中心とした企業が一堂に会し、最先端の製品や技術を紹介しています。「しもすわストリート」では、下諏訪町内企業が創意あふれる展示を行い地域のものづくりの力と魅力を発信しました。地域産業の発展と若い世代への技術継承を感じる貴重な機会となりました。



Events

向陽祭 7/6



向陽高校で行われる向陽祭に下諏訪町議会語るカフェを出版させていただきました。生徒さんたちと楽しく語り、若い世代の力強いエネルギーに触れることができました。出された意見は議会活動に反映していきます。

議会議員交流会 10/8



第27回諏訪地方議会議員交流会マレットゴルフ大会。下諏訪町議会チームも素晴らしい成績を修めることができました。これこそ議会のチームワークの証だと思います！

防災・消防訓練の視察



下諏訪町総合防災訓練（8/31）では、連絡網訓練を実施。役場内で行われた訓練と体育館避難所開所訓練の視察。

消防団非常招集訓練（3月・11月）では監察をさせていただきました。

全国からの視察受入対応



- ・長野県伊那市議会 5月
- ・京都府城陽市議会 9月
- ・三重県朝日町議会 10月
- ・静岡県御殿場市議会 11月

ふるさと納税や放課後こども教室、空き店舗で商店街を活性化する取組について、全国各地から議員の皆様が下諏訪町に視察に来てくださいました。私たちも意見交換を通じて学びを深め、今後の町づくりに生かしてまいります。



私たち議員は、町民のみなさんの声をお聞きするため、毎年議会報告会（懇談会）を開催していますが、今年度は、令和7年10月15日に「議会お話し会」として開催しました。話しやすい雰囲気の日頃感じていることをお聞かせいただこうと4つのテーマに分かれて話し合い、たくさんのご意見・ご要望が寄せられましたので紹介いたします。



「支援が必要な子どもが増えているが、支援員さんの数が少な過ぎる。処遇の改善が必要では」「少ない年金で暮らしていくのは本当に大変。消費税だけでも下がれば」「近所に買い物ができる場所がないため地域の人との話ができない」「小中学校体育館へのエアコン設置は災害時だけでなく大切な課題」「通学路の安全確保のため、車の速度を落とせるよう路面加工が必要では」「学用品のリユースやリサイクル、学校の幹旋品の価格も安くなれば良い。町のイベント時などに、交換や提供ができる場があれば」などの要望が出されました。



「諏訪湖の匂いがとても臭い。ヒシ等の刈り取りをなぜやらないのか」「県外ナンバーが細い道を通っていて、住民は迷惑している」「たばこ税をもっと有効活用してほしい」「町内に防犯カメラをつけて子どもと高齢者を守ってほしい」「駅前の広場でタバコを吸っている少年がいる」「春宮の前の道路を、なぜ広くしないのか。車椅子では大社に行けないので整備してほしい」などの要望が出されました。

その他、「しもすわ産業まつり」についてご意見をいただきました。



「学級崩壊、いじめ、不登校、自殺率については、従来の学校が限界に来ているのでは。学校の在り方、先生の働き方、オーバーカリキュラムの改善を期待」「子どもの第3の居場所づくりが必要」「外国にルーツを持つ子ども達への支援が遅れているのでは」「下諏訪駅前にはせめて防犯カメラを設置してほしい」「移住の手続きの際、町内会への入り方やどんな制度なのか町から説明してほしい」「パブリックコメントのその後がわかると住民も参加しやすい」などの意見が出されました。



安心・安全なまちづくりでは、防犯カメラの設置などの子どもの安全対策について話し合いました。また、「一人暮らしの高齢者が多くなってきており、地震などの緊急時対応として身に着けるペンダント型の機器を配付してほしい」「防災は大きな問題。地域での助け合いや安全性を問いたい」「予防接種の補助券を対象者に郵送してほしい」「議員が各地の災害の教訓をまとめ、準備してほしい」「老朽空き家は崩れそうで怖い。行政が対応してほしい」「公会所にエアコンをつけてほしい」などの要望が出されました。

終わりに、参加者から各テーマ1人ずつ感想として、「和気あいあいよかった」「観光と産業と両立できるか興味がある」「学校カリキュラムが課題」「議員が町民の前に出て意見を聞いて欲しい」などお話しいただきました。町民のみなさんから多数お聞きした貴重なご意見を反映させ、12月定例会の一般質問でいくつかを取り上げました。今後も議会活動に活用していきたいと思ひます。

この町に住んで思うこと

「りんご畑から見える景色」～人の優しさが根付くまち～

松澤 邦江さん

私は下諏訪で生まれ育ち、先祖代々続く農家の8代目です。子どもの頃から畑の手伝いをし、農業高校や農大に進みました。一度は社会勉強をしたいと思い精密会社に勤めました。ジャスコ通りができて町が栄えていく一方で、農家は少しずつ減っていきました。それでも、先祖が残してくれたりんごの木を大切にしながら、新しい木を植えて守り続けています。お客様から「おいしかったよ」「また来たよ」と声をかけてもらえることが励みです。

下諏訪は、人が温かくて本当に大好きな町です。新しく来た人にも自然と声をかける、そんな風土があります。議会には、昔から町を支えてきた製造業や製糸業をもっと大事にしてほしいと思っています。今も国内生産にこだわって頑張っている会社がたくさんありますし、観光と組み合わせて工場見学などができたらいいですよね。また、若い方にも議員になってもらい、町のために考え、行動し、町民の声をしっかり届けていってほしいです。

【インタビューー 高橋】



「松沢農園」8代目として東赤砂にてりんご農園を営んでいる明るく元気な方です。

議長のつぶやき

本誌創刊、50号を迎えました。創刊号は平成19年（2007年）2月1日、統一地方選挙直前の発行でした。

当時は地元新聞が4紙あり、議会の様子や一般質問も現在と同様に詳細に報道されていましたが、議員自らの責任において、皆様にお知らせすることが大切であるとのことから、発行に至りました。

当時、議会改革によって、定数削減（18→13）の選挙の行われる2か月前の発行となり、継続して立候補する議員のPRになるようなことのないように作成したと、当時の編集担当の議員さんからお聞きました。

あれから、19年間（内7年間休刊）発行を続けることができました。これからも、町民の皆様ページをめくっていただける「議会だより」にしていきたいと思ひます。

議長 中山 透

3月定例会日程(予定)

開会	2月24日(火)
議案質疑	3月 4日(水)
一般質問	5日(木)
	6日(金)
閉会	19日(木)

ぜひ傍聴にお越しください。
日程は変更になる場合があります。
詳細は議会HPをチェック！



SNSはこちらから ご覧ください



Instagram



Facebook